

## (2) 学力向上の取組を児童生徒に浸透させるためには、どうしているのか。

### 戸田市立戸田第一小学校

○ 職員が一丸となって、以下のことに取り組んでいる。

<土台> 学習規律・学級づくり・人間関係づくりに努め、学級において何でも話せる雰囲気づくりをしている。

<学習> 授業スタイルの樹立とふり返り活動を重視した学習指導をし、「子どもたちは言語活動を通して思考・判断・表現することで学力が向上する」の理念のもと、「戸一小スタイル」を設定している。

◎ 「戸一小スタイル」

・授業の中で思考・判断・表現する内容を明確にし、その学習を年間を通して続けることで、子供たちが学ぶ型を身に付けられるようにする。

(例) 話し合い活動の進め方(2人組、3人組など)、推敲の手引き など

◎ ふり返り活動の重視

・算数レポート、算数マイノート、授業ふり返りシートを作成し、活用を図っている。

<定着> 学習したことの発信、生かす場づくり、活動の場づくりなどの工夫をすることで、学習内容の定着を図っている。

(例) 国語科：学校パンフレットの活用(保護者へも配布)

体育科：身に付けた技能を低学年に教える活動の工夫

算数科：既習事項を生かし学びのつながりを図る指導

算数的思考を他教科で生かす指導の工夫

全国学力・学習状況調査のB問題の活用

### 飯能市立飯能第一小学校

○ 学力向上を図るにあたり、継続的な学習方法の確立を考え、以下のことに取り組んでいる。

<共通理解を図る研修>

年度当初、全教職員で共通理解共通行動ができるように研修をし、基本的学級経営の確立を目指した上で、学力向上を図ろうとしている。

<5つの実践>

・学力向上のために、学習規律が必要と考え、「5つの実践」を行っている。

・「あいさつ、返事、姿勢、ろうか歩行、そうじ」という実践項目をあげ、教職員が同一歩調で児童の指導にあたっている。

・自分から進んで行き、「人としての土台をしっかりと築いていこう」というものであり、社会に出た時に生きてくるものであると考えている。

①自分から進んであいさつをしよう。(あいさつ)

②返事はハイとはっきりしよう。(返事)

③授業は姿勢を正して受けよう。(姿勢)

④ろうかは静かに歩こう。(ろうか歩行)

⑤掃除は黙って集中してやろう。(掃除)

## 長瀬町立長瀬中学校

○ 学力向上の取組を生徒に浸透させるため、教員間で共通理解をし、以下のことに取り組んでいる。

＜「学習習慣確立のための指導ガイド」を活用＞

- ・ 調査部：家庭学習や生活に関するアンケートを実施して、実態把握や助言等を行い、個々の生徒にもアドバイスをを行っている。
- ・ 対策部：ホワイトボードを活用し、宿題の出題状況が一目でわかるようにすることで、次のような効果が上がっている。①生徒の負担に配慮しつつ、宿題を出すことができる。②教師と生徒が宿題を確認することができる。③生徒が計画的に学習することができる。
- ・ 実践部：家庭学習向上週間の実施、学習集会の開催などを通して、生徒に家庭学習の必要性を浸透させている。

＜学力向上のための「学級力アンケート」の実施＞

- ・ アンケートを実施し、その結果をグラフ化して、生徒にフィードバックしている。学級力の向上と、個々の学力向上は、相互に影響し合っている。

＜「親子のためのわかりやすい学習ガイド」の活用＞

- ・ 家庭訪問時に、学習ガイドの配付と説明を行い、学力向上の意識付けと必要性を浸透させている。

## 宮代町立須賀中学校

○ 学力向上の取組を生徒に浸透させるため、以下のことに取り組んでいる。

＜全教科共通の学習過程＞

- ・ 全教科共通の基本的な学習過程「気づく－考える－深める－まとめる－生かす」による授業実践を繰り返している。

＜学習規律を高める取組＞

- ・ 生徒会、学級委員会を中心に学習規律を高める取組（拳手、マナーアップコンクール等）をしている。また、生徒が自ら学習環境の改善に取り組む姿を評価している。

＜授業における指導の工夫＞

- ・ 授業において、課題の明確化、思考・判断・表現する活動を伴う学習、グループでの交流的活動（聞き合う・話し合う・学び合う）、振り返りの場、個に応じた指導などを位置づけ、「学ぶ喜び」や「できた楽しさ」を実感できるようにしている。

＜家庭との連携＞

- ・ シラバスや家庭学習スローガンの家庭への配布、アンケートや自主学習ノートの実施など、家庭と連携した取組を行い、家庭と生徒の意識を高めている。

＜生徒の学ぶ意欲の向上＞

- ・ 将来の自分から今を考える進路指導、学校行事への積極的な参加、ソーシャルスキルによる支持的風土の醸成等を通して、生徒の学ぶ意欲を高めている。